

海津市まちづくり委員会「第7回グリーン・ツーリズム検討分科会」会議録

開催年月日 平成20年10月21日(火)

開催場所 海津庁舎「委員会室」

分科会委員定数 12名

開 会 午後1時30分

閉 会 午後4時30分

出席者 ○分科会委員

東海学院大学学長 杉山道雄

岐阜県農業振興課 課長補佐 川瀬昭

公募市民 伊藤啓二郎

農業委員会代表 橋本輝男

農事改良組合連合会代表 西脇幸雄

営農協議会代表 芳賀麒一郎

農業フォーラム21代表 山内徳男

農業セミナー代表 近藤修治

海津市商工会 鷲野勝憲

木曾三川ブルーベリーの里 伊藤辰博

海津市農林振興課主幹 中島智

海津市生涯学習課係長 森悦子

○事務局

企画政策課係長 後藤政樹

海津市企画政策課主任 毛利卓司

欠席者

海津市4Hクラブ 近藤栄希

海津市商工観光課係長 大倉光好

会議次第

1. 開会
2. 協議
 - (1) 市内視察研修
 - ・JA西美濃グリーンセンター南濃
 - ・道の駅「月見の里 南濃」
 - (2) 海津市におけるグリーン・ツーリズムについて
 - ・提案事項の再検討
3. その他
4. 閉会

会議録（要約）

	<p><市内視察></p> <p>J A西美濃グリーンセンター南濃 南濃みかん狩り園にて現状や施設の概要説明を受けました。</p> <p>→来園者数 H18年度 4,637人、H19年度 6,922人 →運営内容、方針について説明 →課題・問題は、後継者がいない</p> <p>道の駅「月見の里 南濃」 →加工組合（市内女性団体4つで構成） →製造加工品について説明 →試食</p> <p>事務局 今回は、今まで議論してきたことや今日の市内視察を踏まえて、グループワークをしていただきたいと思います。2グループに分かれて、それぞれ1つ以上、海津市におけるグリーン・ツーリズムを検討していただき、運営方法や組織、PR方法など詳細に至るまで提案していただきたいと思います。アドバイザーにおかれましてもグループに入っていただき、アドバイスまたはご提案をお願いしたいと思います。</p> <p>なお、発表された事をもとに、事務局で整理をしまして当分科会の「1次素案」とさせていただきます。</p> <p>（グループ協議）</p> <p>それでは、グループでの協議・検討結果を発表していただきたいと思います。</p> <p>1グループ発表 資料「海津市におけるグリーン・ツーリズムの提案について」の順序に従って発表させていただきます。</p> <p>【海津市のグリーン・ツーリズムの目的、方向性、概要は？】 1つ目は、商工農との連携による交流人口の拡大 2つ目は、地域ブランドの確立による産業振興です。</p> <p>【海津市のグリーン・ツーリズムの目玉と考えられるものは？】 海津市で一番の集客がある千代保稲荷を中心として、観光アンケートでわかってきたお客さんの移動ルート上、またはその近辺に地産池消の店を増やしていく、お千代保さんと地産池消の店を1つの目玉として考えたかどうかと思います。</p> <p>【既存もしくは新たな試みとして「これならできる」「やったら面白い」と思われるプランとその詳細は？】 1. プラン名 地産池消の店</p>
--	---

2. サービス概要

- ・ 郷土料理を満喫できるメニューを作り、料理を提供します。
- ・ 市内の飲食店と業務提携し、地元素材（野菜等）をふんだんに使用した「ヘルシー料理」「ヘルシーデザート」を提供します。

どのような方法で進めるかということなのですが、まず料理メニューやレシピですが、当市には海津明誠高校がありますので若いアイデアを活用してメニュー枠を設けて考えていただくのが面白いのではないかと思います。もうひとつは、コンテストを開催して優秀作品をメニューに採用してはどうかという意見がありました。また、コンテストにデザート部門を作って若者うけするようなものが開発できれば、話題となってPRにつながるのではないかという意見が出ました。

3. 実施する者、または組織

地元飲食店

4. 役割分担・協力支援体制（誰が何をすべきか、何を協力できるか、など）

農業者は素材の提供。一般市民は、「我が家の得意料理」「オリジナルメニュー」など、ご家庭の献立をコンテストに出品していただくというような形で関わっていただくのがよいのではないかという意見が出ました。行政は何をするかということですが、宣伝をひたすら行う、成功するための下地作りに取り組むという意見が出ました。

5. プランの実施にあたって市などに要望することは？

コンテストを行うとき、またイベントを計画するとき、どうしても組織が必要になります。また組織の前に人材が必要になります。市には、人材の育成確保や組織作りに取り組んでいただきたいと思います。

あと、組織を作ったとしても走り出さないと機能しませんので、作った組織が1人歩きできるようになるまでは行政に引っ張っていただきたいと思います。

そのほかとして、グリーン・ツーリズムは春夏秋冬に位置づけるという必要がありますが、これは今後の課題ということにして考えはどうかと思います。まずは、地産池消の店に取り組んでみて、組織を立ち上げる、その後、四季のメニューや市内ルートを検討して行ってはどうかという意見になりました。

2 グループ発表

農業者としての立場で考えると、農業体験をさせるということになると、収穫の終わりの時期に単発的（1日）に行うものであれば可能だと思います。例えば海津のイチゴ部会の中でお願いして、生産者10名くらい協力していただければ、農業体験の計画を立てられないこともないと思います。トマトもキュウリも同じですが、生産者が1日だけであるならば協力を得られるのではないかと思います。観光などは商工会などでPRしていただいて、それに付随して農業者が協力するという格好になります。部会というのは、JAの部会ですが13か14品目あると思いますが、その中で面白いと思うのは、ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、そういったものを担い手の人をお願いすればよいのかと思います。

補足ですが、農業フォーラム21では小学校を対象に無料で収穫体験を行っています。これは生産者が収穫（収入）を得た後の話です。時期についても、生産者の方が

事務局	<p>都合に合わせて個々に学校に連絡して体験してもらっている状況です。もしこうした体験をしようとするならば、こちらから一方的に日にちを決めるのではなく、生産者に日にちを決めてもらってから、それをPRをする方法をとらないとダメだと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>運営するには組織作りが必要だということ、また農業体験については収穫後（残り）というイメージが悪くなるので、例えば3品目のハウスを回って、野菜を詰め放題にできる、というのも面白い企画かなと思いました。このあたりを事務局でアレンジして素案に載せていきたいと思います。</p> <p>ただいまのご意見を事務局で整理して1次素案として作成させていただきたいと思います。</p> <p>以上をもちまして第7回目の分科会を終了いたしたいと思います。</p>
-----	---